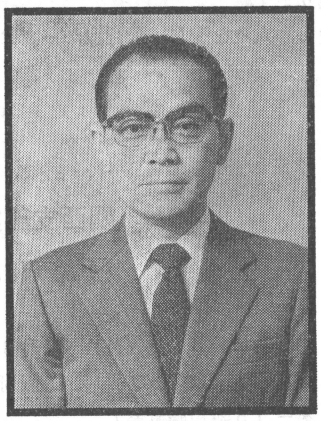
小野晃先生の御逝去を悼む



昭和63年1月26日午後3時55分，名古屋大学水圏科学研究所教授小野晃先生が心不全のため亡くなられました．まだ56歳でした．1月31日告別式が郷里の長野県塩尻市で行われ，3月24日研究所葬が名古屋大学において行われました．先生のお人柄をしのび，北海道から九州まで多くの人々が参列され，また，国外からも，先生の御他界を惜しむ手紙，電報が多数寄せられました．

先生は，この数年，腎臓の治療を続けてこられましたが，今年になってからはむしろお元気そうで，仕事にも張り切っておられるようでした．亡くなられる前日も，大学院生の修士論文の指導などを元気に行っておられました．あまりにも急な御逝去にはただただ残念でなりませんし，いまだに信ずることができません．

小野先生は昭和6年長野県にお生れになり，昭和31年に東京大学理学部物理学科を卒業された後，東京大学大学院数物系研究科地球物理課程に進まれ，昭和36年には東京大学理学部助手になられました．続いて，昭和44年から気象庁気象研究所研究官に就任され，研究室長をへて，昭和52年に名古屋大学教授に就任され，水圏科学研究所降水物理学部門を担当してこられました．この間，主に雲物理学，大気エアロゾル粒子の研究を行われ，多くのすぐれた業績をあげられる一方，若手研究者の指導に励んでこられました．

本当に真面目な，正義感にあふれた，優しい小野先生のお人柄には，接する人の誰もが心を洗われ，人々にとってオアシスのような方でもありました．いろいろの人々が先生を何度も訪ねては，話を交していきましたが，先生が最後におっしゃる『それでいいんじゃないですか』の言葉に，ある人は勇気づけられ，ある人はほっとし，またある人は救われもしました．この言葉には実に沢山の意が含まれていたようでしたが，先生だからこそ口にすることのできた言葉で，今はこの言葉を聞くこともできず淋しさがつのります．

小野先生の御研究は，大きくみると3つのステップをへて発展してきました．東京大学時代の礒野・駒林・小野・池辺グループとしての研究は，土壌粒子・火山灰などの自然氷晶核の起源，性質，ヨー化銀を用いた人工降雨の可能性などの研究が中心でしたが，雲物理学の新鮮な魅力ある研究として脚光をあびていました．小野先生は，その中でむしろグループの研究のまとめ役として活躍され，特に，野外観測における精力的な活動と細かな心配りは研究の成功には無くてはならないもので，余人には変えがたいものがありました．

昭和41年から44年にかけて，オーストラリア CSIRO 滞在中に，MOSSOP 博士らと行った雲の中の氷晶の飛行機観測は先生の業績の中でも特に有名なものでありました．雲中の氷晶の形状，特徴を実際に示したこと，測定された自然氷晶核数よりもはるかに多い氷晶が雲の中で形成されることを示したことなどは，世界の多くの雲物理研究者がその論文に度々引用する成果であります．

また，オーストラリア滞在中に Bigg 博士らと始められ，名古屋大学で大学院生を指導しながら続けてこられた大気エアロゾル粒子の研究は，大気化学・エアロゾル科学の新しい波の到来を予想させるものであります．なかでも，個々の sulfate 粒子，nitrate 粒子を同定する試薬薄膜法を開発，発展させ，成層圏エアロゾル粒子の組成，海上の微小な硫酸粒子の存在，都市大気中の硝酸塩粒子の形成など，次々と新しい事実を見出されたことは，大気中の化学反応を粒子のレベルで研究することを可能にしたものでもあり，今後の発展が大いに期待さているものでした．これらの研究は高く評価され，昭和63年度の日本気象学会賞が授与されました．先生は，最近は，地球規模の大気化学の研究計画（IGAC）の実現にも尽力しておられました．

このように，小野先生の御研究は，雲物理学，人工降

雨，大気エアロゾル粒子の研究において，常に漸新な発想と深い洞察力にもとづいてなされてきました．これらの研究は国際にも先駆的役割を果すものとして注目を集めてきましただけに，小野先生の突然の御逝去には無念さのみが残ります．

自然を愛し，人々を愛し，飛行機から雲を観たり，大気球を成層圏に飛ばしたり，いつも高い空に夢を馳せておられた小野先生は，今は，もっと高い空から地球を眺めていらっしゃるのかも知れません．

御冥福をお祈り申し上げます．

（名古屋大学水圏科学研究所　武田喬男）

関西支部第10回夏季大会開講のお知らせ

気象予報と防災（災害）——気象と生活——

期　　日：昭和63年8月1日（月）～8月3日（水）

場　　所：大阪市東区京橋3丁目15　大阪府立労働センター（5階視聴覚室）
（京阪・地下鉄谷町線「天満橋駅」下車，松坂屋西へ200m）

受 講 料：3,000円（テキスト代を含む）

申込方法：住所・氏名・年齢・勤務先・電話番号を明記し現金書留，又は郵便振替で受講料を添えて申し込んで下さい．
受付後受講票をお送りします．
（郵便振替口座　大阪 8-18318　日本気象学会関西支部）
定員　100名（定員に達し次第締切ります）

申 込 先：〒540　大阪市東区法円坂町 6-25
大阪合同庁舎第2号館
大阪管区気象台内　日本気象学会関西支部
【TEL (06) 941-0341 内線 6145】

申込締切：昭和63年7月22日（金）

主　　催：日本気象学会関西支部

後　　援：大阪府教育委員会，京都府教育委員会，兵庫県教育委員会，奈良県教育委員会，滋賀県教育委員会，和歌山県教育委員会，大阪市教育委員会，大阪管区気象台

	午前（10時20分～12時30分）	午後（13時30分～16時）
8月1日（月）	案内　災害論（気象予報と防災の限界） ***気象災害の変遷*** 光田　寧（京都大学防災研究所教授）	大阪における水災害の歴史的変遷 河田恵昭（京都大学防災研究所助教授）
	午前（10時～12時）	午後（13時～16時）
8月2日（火）	予報実習（天気図から何を読取るか） 池田　浩，山本二郎（大阪管区気象台予報官）	
8月3日（水）	折々の注意報（注意報からみる暦） 中島　肇（大阪管区気象台予報官）	気象台見学　（注）異常気象の場合は翌日に順延するが，中止の場合もある